

浦 添 市 地 域 公 共 交 通 会 議

【 第 2 回 】

小学校 MM
(内間小、宮城小)

平成 30 年 2 月 8 日

浦添市都市建設部都市計画課

公共交通への転換に向けて ～小学校出前講座など浦添市の取り組み～

神島 さゆり

浦添市役所 都市建設部 都市計画課 都市交通企画係 技師
KAMISHIMA Sayuri

1. はじめに

沖縄県では急激な自動車利用の拡大と公共交通利用者の減少により、極めて高い自動車依存型社会が形成され、交通渋滞が日常化している。中でも市内の自動車の平均速度は、時速16.8^{km/h}と非常に遅くなっている(図-1)。そのため、交通渋滞の緩和には、自家用車から公共交通利用への転換が重要であることから、市民の公共交通に対する意識転換と利用促進を図るため、関係機関と協力しながらモビリティ・マネジメント(以下、「MM」[※])というの施策を展開しているところである。

本稿では、小学生向けに実施した公共交通に関する出前講座及び転入者に向けたMMの取り組みについて報告する。

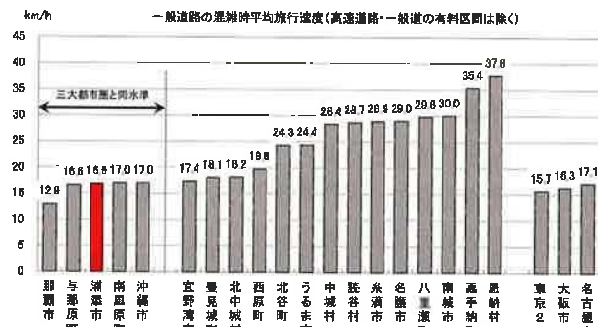


図-1 市町村別混雑時旅行速度(平成22年度道路交通センサス)

2. 浦添市におけるMMの位置づけ

2.1 浦添市総合交通戦略

「浦添市総合交通戦略」は、「浦添市交通基本計画」の実現に向けて、効果的・効率的な施策を図る目的で、短中期的(5～10年程度)な具体的なアクションプランとして位置づけている。主に

※)MMとは、「ひとり一人のモビリティ(移動)が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策」と定義されている。「モビリティ・マネジメントの手引き」土木学会・2005年5月

徒歩、自転車及び公共交通による移動が自家用車の移動と比べ遜色なく両立し、市民の日常的な移動に際して、徒歩、自転車及び公共交通の選択が可能となるよう総合的に取り組むものである。各施策は、地域の実状や市民のニーズを踏まえて検討を行っている(図-2)。

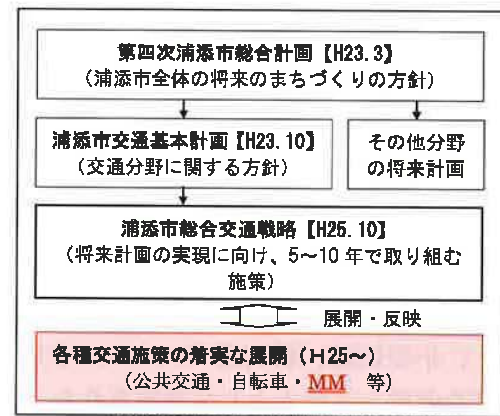


図-2 浦添市における交通関連施策の位置づけ

2.2 浦添市におけるMM実施の背景と目的

市民の交通実態において、500m以内の移動でも約4割の人が自動車移動している(図-3)。また、市内の小中学校においては、2割以上の児童・生徒が車で送迎されているなど、短距離での車移動が日常となっている(図-4)。このような幼少期からの交通行動が、短距離での車移動が日常の実態につながっている側面も考えられる。

そのため、自動車に頼らない交通行動の素地づくりを目指し、児童・生徒向けに学校MM、住民向けに転入者MMを持続的に展開する方針をかけている。学校MMについては、児童・生徒に、自動車や公共交通に対する知識を勉強してもらうことで、公共交通利用の抵抗をなくし、幼少期のうちから公共交通も移動手段のひとつとして捉えてもらうことを目的に、公共交通に関する出前講座を実施している。転入者MMについ

ては、転入者向けに、自宅周辺のバス停位置及び利用可能なバス路線を確認してもらう目的のため、交通マップの配布を行っている。(図-9)

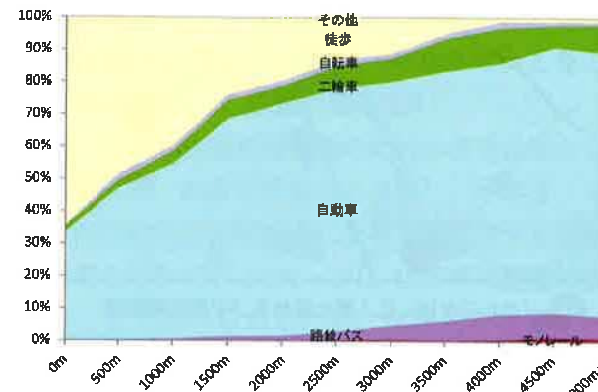


図-3 浦添市民の距離別交通手段分担率
【浦添市交通基本計画】・浦添市・2011年10月

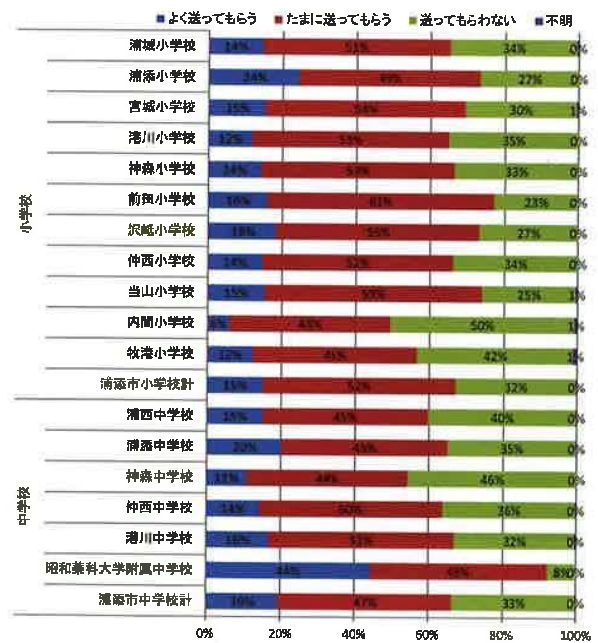


図-4 浦添市における小中学校の送迎の実態
(小学生=3,105人、中学生=4,124人)
【公共交通活性化に関する調査業務】・沖縄県公共交通活性化推進協議会・2012年3月

3. 公共交通に関する出前講座

3.1 モデル校の選定

国道58号では、将来的に基幹バス導入を目指しており、公共交通の利用環境が改善されることが期待される。また、平成27年2月2日にバスレーン延長が市内でも実施され、このエリアにおいては、基幹バス導入やバスレーン延長等の施策と連携し、公共交通の利用意識を高めていくことが重要となる。

前述の交通環境の変化を考慮すると、モデル校の選定にあたっては国道58号沿線のエリアに

位置する小学校から選定することが望ましいと考えることから、内間小学校をモデル校として選定を行った。



図-5 内間小学校位置図

3.2 実施概要

出前講座の実施概要を下記に示す。

表-1 実施概要

実施日	2015年12月18日(金)
対象者	浦添市立内間小学校の4年生(3クラス、計94名)
形式	講義 交通すごろく バス乗車体験
実施者	浦添市、(株)中央建設コンサルタント、沖縄バス(株)

表-2 授業構成

校時	授業形式	概要
1校時	講義(15分)	パンフレット、スライドを通じて、公共交通の必要性を学ぶ
	交通すごろく(25分) まとめ(5分)	交通すごろくを行い、個人の交通手段選択の結果が社会に与える影響について実感する
2校時	バス乗車体験	バスに乗り、学校周囲を走行中
3校時	(1クラスずつ実施)	に運賃表の見方、乗車マナー等について学ぶ
4校時		

3.3 授業内容

他県で実施された出前講座では、地域の公共交通やクルマ社会、交通まちづくり、モノの流れなどについて考える学習があり、多様である。本市においては、初期段階ということもあり、あまり難しい内容とせず、ゲームなどを通して公共交通が抱える課題等を実感できるような内容とした。

授業内容は大きく3つあり、「公共交通についての説明」、「交通すごろく」、「バス乗車体験」となっている。

「公共交通についての説明」では、公共交通の種類、どんな人に必要なのか、市の交通渋滞の様子などについて、パンフレットやスライド



写真-1 公共交通に関する説明



図-6 学校用パンフレット(P1~P2)



写真-2 交通すごろくに取り組む様子

ショーを用いながら学んでもらう内容とした(写真-1、図-6)。

次に、「交通すごろく」では、自動車とバスの進み方の違いについて、個人の交通手段の選択の結果が社会にあたる影響を、すごろくゲームを通して実感してもらった(写真-2、図-7)。

さらに、「バス乗車体験」で、児童に乗車体験させることで、バス利用方法を習得して、自動車以外の移手段のひとつとして捉えてもらった(写真-3)。

3.4 取り組みの結果

今回の出前講座は、3クラスの2コマ(45分

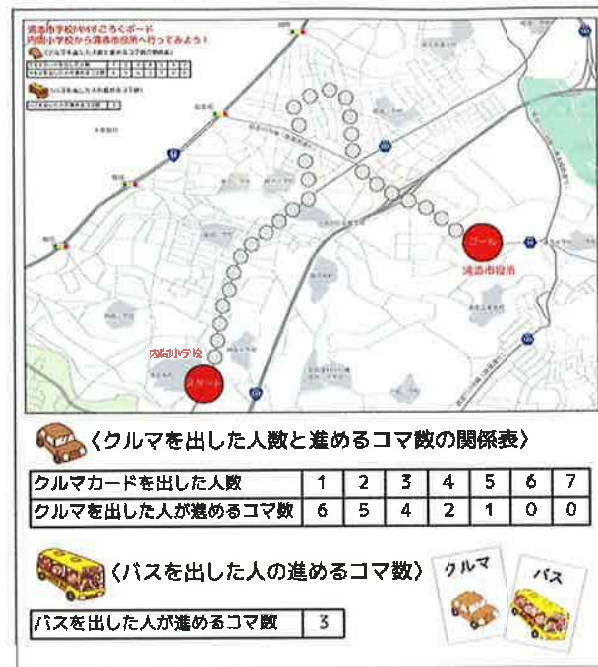


図-7 交通すごろくのツール



写真-3 バス乗車体験の様子

×2)で実施を行った。児童には、学校だけでは得られない専門知識(公共交通とは何か、浦添市の交通状況等)や実物によるバス乗車体験の機会を提供することができた。

児童からの感想文を見ると、多くの児童が公共交通の必要性や車とバスの進み方の違い、バスの乗り方について、楽しく学べたことを記入している。今後は、さらに踏み込んだ段階として、個人の意思決定(車かバスかの選択)が社会にあたる影響(公共交通の縮小等)について、児童本人に考えてもらえるよう講座構成を検討する必要がある。

3.5 継続的な取り組みについて

今回は、モデル校として内間小学校の1校のみで出前講座を実施した。本市では、「浦添市

総合交通戦略」でも位置づけられている通り、市内11の小学校に対しMMの取り組みを行っていくとしている。今後、市教育委員会や交通事業者と連携しながら授業のカリキュラムと連携できる部分を探り、教育ツールのひとつとなるよう検討していく必要がある。

また、公共交通利用促進のための啓発活動として、沖縄県・市教育委員会と連携し、小学3・4年生向けの社会科副読本に公共交通に関する記事の掲載も行っている(図-8)。社会科の授業の教科書として用いられるため、持続的な授業ツールとして活用し、内容を深めてもらうため、出前講座も同時に実施できるように働きかけを行う。



図-8 小学校3・4年生向け社会科副読本

4. 転入者MMの取り組み

4.1 実施の位置づけ

本市で行うMM施策の対象に、転入者向けの施策がある。対象を転入者とした理由には、「新しい居住地で生活を始めるために様々な情報を収集していること」、「車利用が習慣化していない可能性があること」などから、転入した段階で転入先の周辺における公共交通(バス)の利用環境について情報提供を行い、過度に自動車に依存しない交通行動への働きかけを行うものである。

4.2 基本方針

下記基本方針を基に転入者MMのパンフレット作成を行った。

①転入者に合わせた細やかな情報提供

・転入者に対して、公共交通利用の働きかけを丁寧に行うことが重要であるため、市域全体を対象とした一様な情報提供ではなく、転入先に応じた細やかな情報提供が必要。

・市域を複数に分割して、エリア毎の情報提供を実施。

②情報提供の継続性の確保

・情報提供の継続性を確保するため、市役所内で調達(印刷)可能なツールとする。
・転入者MMに必要な内容を網羅しつつ、市役所内で印刷しやすくするため、A3折りのパンフレットとする。

4.3 転入者パンフレット

4.2の基本方針を基に作成したパンフレットは、平成27年度より、市民課窓口にて住民票交付の際に配布を行っている(図-9)。



図-9 転入者用パンフレット(P1~2、北地域)

4.4 今後の課題

パンフレット内の位置図を、詳細に確認できるように4つの地域に分割した結果、配布する際に、地域の確認に時間を要する課題があることから、配布する資料は1種類に統一し、市全域で詳細位置が確認できるようにレイアウトへ検討する必要がある。

5. おわりに

学校MM及び転入者MMの現在の取り組みは、主に路線バスについての情報提供である。中期的には、平成31年春に開業予定である沖縄都市モノレール延長整備に併せて、沿線住民や学校を対象に、モノレールと路線バスの複合的な利用について情報提供を行っていく予定である。

今回、バス乗車体験の実施に当たっては、沖縄バス様にご協力いただきました。調整に際しご尽力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げます。

モビリティ・マネジメント ～宮城小学校でのMM実施計画～

Report



■ 授業内容

1. 講義 (15-20分程度)

- 公共交通の必要性に関する資料 (小学生用パンフレット、浦添市作成のスライド) を用いて講義を行った。

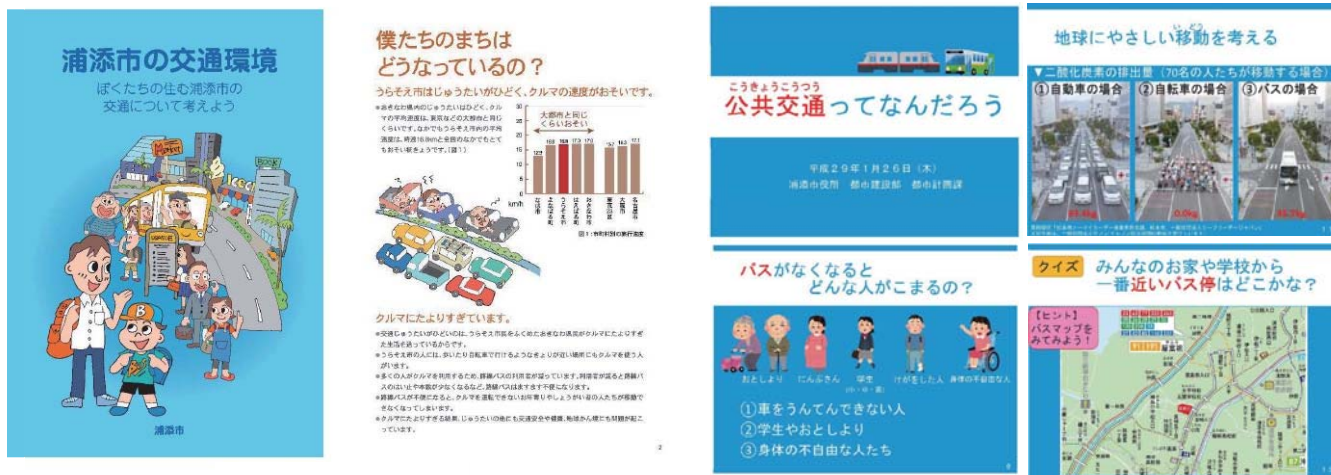
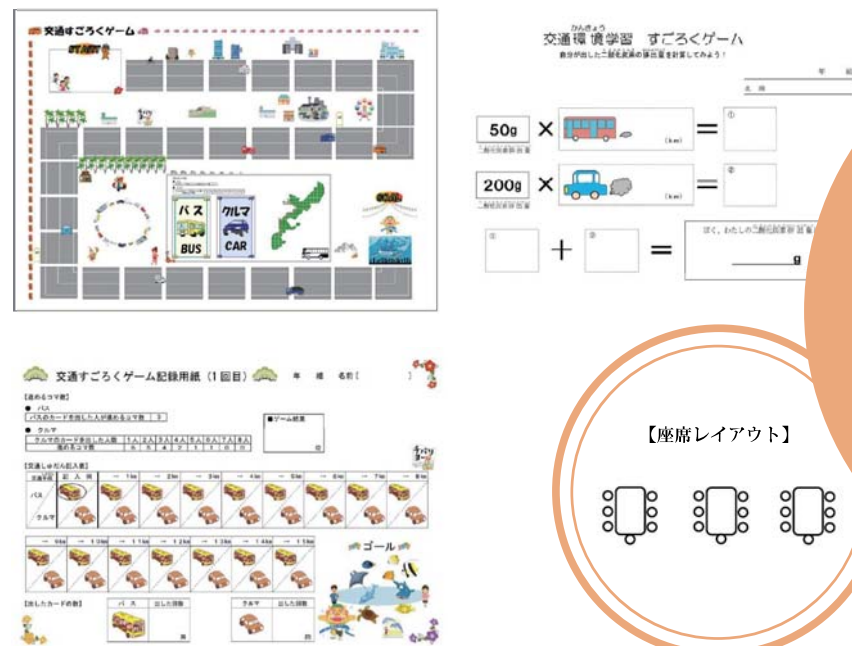


図1 小学生用パンフレット

図2 スライド

2. 交通すごろく (20分程度×2回)

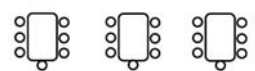
- 交通すごろくのツールを用いて授業を行った。今回は20分×2回実施した。
- ゲームの1回目においては、出した交通手段回数事に排気ガスの排出量を計算。
- ゲームの2回目においては、バスカードの使用は3回までと制限し、渋滞状況の疑似体験。



配布するツール一覧

- ※各チームに、1枚ずつ配布するもの
- ・浦添市学校 MM すごろくボード
- ※児童1人ずつ、配布するもの (各1枚)
- ・バスカード
- ・クルマカード
- ・乗り物結果シート
- ・乗り物カード枚数の記録票

【座席レイアウト】



3. まとめ (10分程度)

- 交通手段の選択が社会に与える影響について、スライドを用いて説明し、車利用について考えてもらう。



図3 スライド

4. バス利用マナー (15分程度)

- 路線バスの乗り方やバスの車内でのマナーについて知ってもらう。



図4 スライド

■ 授業の様子



スライドを使った講義の様子



■ アンケート結果

● 学校教育 MM 実施前のアンケート結果や実施前後のアンケート結果を比較し、授業を受けることによる児童の意識変化を確認した。

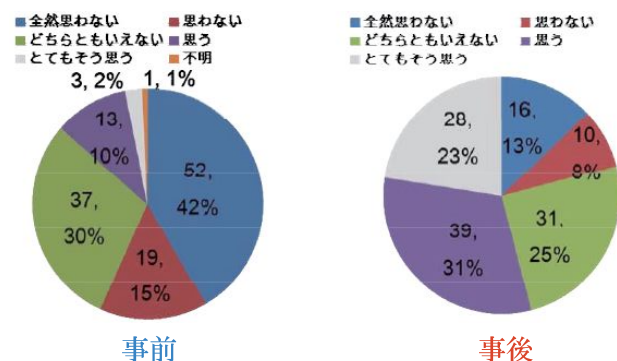
・ 事前アンケート実施：平成 29 年 1 月 19 日（木）～ 1 月 25 日（水）

・ 事後アンケート実施：平成 29 年 1 月 30 日（月）～ 2 月 2 日（木）

「できるだけ、バスを利用」について

質問：「できるだけ、バスを利用」しようと思いますか？

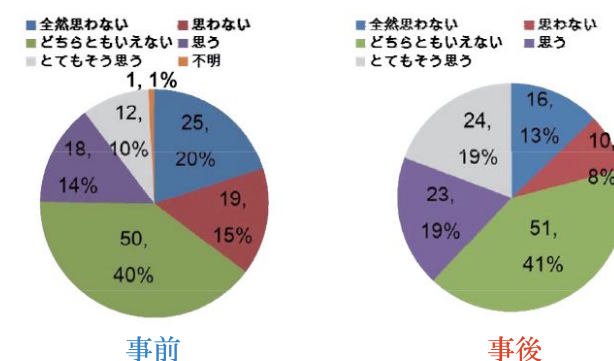
・ バス利用の心がけについて、「とてもそう思う」「思う」が事前の12%から事後は54%と42%も増加している。
 ・ 授業実施前と実施後では「バス利用」への大きな意識変化がみられる。



「車にあまりたよらない生活」について

質問：「車にあまりたよらない生活」にしたいと思いますか？

・ 車にたよらない生活への心がけについて、「とてもそう思う」「思う」が、事前24%から事後38%と14%も増加している。
 ・ 授業実施前と実施後では「車にたよらない生活」への意識変化がみられる。



■ 感想アンケート（児童用）

● 子どもたちの感想について、項目ごとの主な分類は以下の通りである。

渋滞の発生に関する理解

公共交通がないと、渋滞が起こるから不便だと感じた。

公共交通に対する理解

お年寄り、妊婦さんや車を運転できない人には、バスやモノレールが必要だと知りました。

バスの乗り方に関する理解

日曜日は、お父さんやお母さんと一緒に乗ると、運賃が無料になる。

渋滞による環境への影響の理解

バスやモノレールを使って、二酸化炭素を減らせるようにしたい。

■ 感想アンケート（教員用）

- 今回実施した学校教育 MM について、各先生からご意見を伺った。
- アンケートの結果から、学校教育 MM の評価は良かったと考えられる。
- 今後は、アンケートに示された意見等を踏まえ、授業内容の見直しや事前打ち合わせ等を実施していく必要がある。

保護者も一緒に講座を受け、親子一緒に考えることが出来たらよいと思う。今後は授業参観の日に計画できればよいのではないか。

「環境によい」という視点で公共交通のメリットをもっとだしたほうがよい。

モノレールについても授業内容に含めてほしい。

アンケートについて、選択項目の始めに「楽しかった」等のポジティブな順番が子供達は慣れている気がする。

- ・ 児童の 98% は、公共交通（バス、モノレール）を利用したことがある。
- ・ 直接的な行動の変化をみると、学校教育 MM 実施前後の車による通学は約 30% となっており、変化はみられない。
- ・ 「心がけ」の意識変化をみると、「安全な移動」や「健康によい移動」では、大きな変化は見られないが、「環境によい移動」、「バスの利用」及び「車にたよらない生活」では、10% 以上の意識変化がみられる。
- ・ 今回の学校教育 MM 実施により、直接的な行動の変化は見られなかったが、意識的な変化が大きく現れている。
- ・ 今後も、学校教育 MM を持続して行うことで、車にたよらない移動への心がけに対する意識づけができると考えている。
- ・ また、学校教育 MM では、実際に車にたよらない移動の事例を複数あげ、直接的な行動の変化に働きかける方法も行っていく必要があると考えられる。